

# 国際交流員(CIR)活動ページ

レポート: ジョ ヒウン(韓国)

アンニョンハセヨ(こんにちは)。韓国の国際交流員ジョ・ヒウンです。

日本の5月と言えば、ゴールデンウィークですね！長い休みの間、日常から少し離れて家族や友だち、あるいは自分だけの時間をゆっくり過ごし、リフレッシュできる時間だと思います。

韓国で5月は「家庭の月」と呼ばれるほど、イベントが多いです。日本と同じく、5月5日は子供の日であり、8日は両親の日です。日本では、母の日と父の日が分かれています。韓国では両親の日があります。両親に感謝の気持ちを込めてカネーションやプレゼントをあげたり、家族が集まって食事をしたりするなど、家族と一緒に時間を過ごします。日本人が聞いたら驚くかもしれませんが、韓国のアンケートでは、親が一番もらいたいプレゼントに現金がよく挙げられます。個人的にはその人を考えながらプレゼントを買うことを好みますが、一般的には両親がお金で自分たちの欲しい物を買う方がベストではないかと考えられています。その他にも、15日は先生の日(生徒が先生に感謝の気持ちを伝える)、第3週月曜日は成人の日(20歳になる青年たちの成人式)があります。

一緒に暮らしている日々の中で、家族への感謝の気持ちをその時々伝えるのが一番良いと分かってはいるけれど、実践することはなかなか難しいものですね。ふとした時に家族や周りの人に「ありがとう」と、一言でも自分の気持ちを伝えてみるのはどうでしょうか。

## 「ハングル教室」始めました！



公民館講座がない期間、市民の皆さんにハングルについて紹介したいと思い、4月から5月にかけて全4回のハングル教室を企画しました。

4月11日に行った1回目は、ハングルについて紹介し、それから一文字ずつ一緒に学びました。ハングルは、韓国語で使われている文字を意味します。日本語に置きかえると、カナにあたります。この文字は、朝鮮の第4代王である世宗大王が1443年に作り、3年間の試行期間の末、1446年に世に出されました。今はハングルと呼ばれていますが、フンミンジョンウン 当時は「訓民正音」と言いました。「民を教える正しい音」という意味です。この訓民正音を作った理由は、漢字を知らない民に問題があったとき、文書が書けないので国や法律に助けてもらえないことを、世宗大王が不便に思ったからです。現在使われている文字は、子音19字・母音21字があり、ハングルはこれらの組合せでできています。

文字だけの勉強なので面白くないかもしれませんが、一緒に頑張っている受講生の皆さんとあと2回のハングル教室も頑張りたいと思います(^-^)

## 「国際お菓子作り」で、中国の「蛋黄酥(ダンファンズウ)」を作りました！

4月20日に国分公民館の調理室で、中国国際交流員リ・ディが台湾発祥のお菓子である「蛋黄酥」を紹介しました。焼いたアヒル卵黄を小豆あんで包み、それをさらにパイ生地で包んで焼く月餅の一種で、最近では台湾だけではなく、中国でも流行っているデザートだそうです。

1個は卓球玉より少し大きいサイズのデザートですが、パイ生地は寝かせる時間が大事なので、結構時間かけて丁寧に作った食べ物です。時間が限られているため、レシピより時間を短くして作りましたが、それでもとても美味しかったです。レシピ通りに十分時間かけて作れば、より美味しい「蛋黄酥」を食べられるのでしょうか(^-^)

焼いている間に、りさんは中国地域ごとの月餅の特徴について色々なお話を聞かせてくれました。月餅は丸い形の一種類しかないと思っていましたが、地域によって様々な形の月餅があることが面白かったです！

